

# 岩手県における「紅伊豆」の栽培法

## 第1報 気象条件から見た栽培適地

工藤 英夫・藤根 勝栄\*・小野田 和夫\*・伊藤 明治\*\*

(岩手県園芸試験場大迫試験地・\*岩手県園芸試験場・\*\*岩手県農政企画課)

'Beniizu' Grape Growing in Iwate Prefecture

### 1. Effect of climatic factors

Hideo KUDO, Shouei FUJINE\*, Kazuo ONODA\* and Akiharu ITO\*\*

(Ōhosama Experimental Farm, Iwate Horticultural Experiment Station・\*Iwate Horticultural Experiment Station・\*\*Agricultural Administration Section of Iwate-ken Government Office)

### 1 はじめに

岩手県のブドウ栽培は、キャンベル・アーリーなど耐寒性の優れた米国種が主体であるが、近年、果物の高級化嗜好の高まるなかで、食味の優れた欧州系大粒種の導入が強く望まれていた。

このため、本県で栽培可能な大粒種を選抜すべく、長年にわたって、諸品種について試作検討した結果、紅伊豆が10年間の栽培実績から、安定した生産がみられたので、これを本県の準奨励品種と選定した。

本種は四倍体品種であること、欧州系雑種であることから高温量を要し、凍寒害などの影響も受けやすく、特に気象災害回避による生産の安定が重要であることから、栽培を進めるに当たっては、気象面からみた適地基準が必要と考えられる。このため、これまでの栽培実績をもとに、メッシュ気候情報システムを利用するなど、適地の検索を行い、栽培可能地を選定したので報告する。

### 2 試験方法

#### (1) 生態、果実品質調査

1) 供試樹 紅伊豆/5C 10年生 2~5樹

表2 紅伊豆の生態

場所(品種)	発芽	開花			収穫	成熟積算気温(°C)		
		始	盛	終		昭60	昭61	昭62
大迫町 (キャンベル)	5.8	6.21	6.23	6.26	9.29	1,869	1,974	2,042
	5.6	6.18	6.22	6.25	9.13	1,665	1,718	1,822
北上市	5.4	6.20	6.23	6.25	9.30	2,159 (S55~60平均)		

注. 紅伊豆の生態は昭和54年から62年までの平均値

キャンベルの生態は昭和30年から62年までの平均値

キャンベル1,800°Cより高い)。また栽培実績から冬期間の凍害危険温度を-16°C(キャンベル-18°C)とした(表3)。

更に6項目についてメッシュ気候情報システムを利用して、適地を検索し、6項目すべてを満たす地域を明らかにした(図1)。

#### 2) 調査地 園芸試験場(北上市)及び同大迫試験地(大迫町)

#### (2) 栽培可能地の選定

岩手県メッシュ気候情報システム利用

### 3 試験結果

紅伊豆は巨峰など他種と異なり、凍寒害による枯死も少なく順調に生育した。また果実品質、収量は10a当り1.0~1.2tで房重300~350g, 粒重10g内外, 鮮紅色で食味も優れるなど安定した生産であった。(表1, 2)。

一方、気象条件では、成熟に要する積算気温を生態調査結果などから2,000°Cと設定した(巨峰2,350°Cより低く、

表1 紅伊豆の果実品質

場所(品種)	房重(g)	粒重(g)	糖度(RM)	酸(%)
大迫町 (キャンベル)	342.1	10.3	17.7	0.60
	372.1	5.6	15.9	0.55
北上市	299.7	9.9	17.2	0.56

注. 紅伊豆は昭和54年から62年までの平均値

キャンベルは昭昭58年から62年までの平均値

図示された地域は県中以南の北上川流域が主体であり、一部地域で行われている紅伊豆の試作が順調な地域と符合している。

なおメッシュ気候情報システムによるくくりは一つの指標であり、晩霜、強風など現地の微気象を充分考慮する必要がある。

表 3 適地基準

項	目	基 準
萌芽温度		10℃
新梢伸長最低温度		10℃
新梢伸長最高温度		25～30℃
新梢伸長に必要な7～8月平均気温		22℃以上
開花期間中の最低日平均気温		12.2℃
開花期間中の最高気温の低温限界		15℃
受精最適温度		20～30℃
年平均気温		10.5℃
生育期(4～10月)平均気温		17℃
成熟に要する積算気温		2,000℃
成熟限界温度		平均気温 15℃
霜害危険温度	展葉期	-2.0℃
	花らい期	1.0℃
	開花期	1.0℃
	結実期	-1.1℃
凍害危険温度		最低気温 -16℃
年降水量		1,600mm以下
生育期(4～10月)降水量		1,000mm以下
成熟期(8～9月)降水量		300mm以下

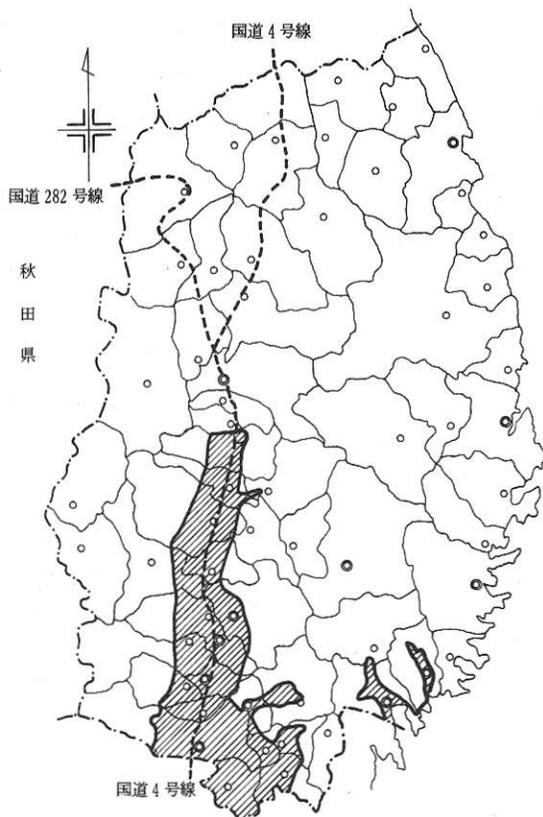


図 1 紅伊豆のメッシュによる限定地域

注. 生育期平均気温, 年平均気温, 7～8月平均気温, 成熟積算気温, 成熟限界気温, 年降水量による。

は必須である。また凍寒害の助長要因となる枝の徒長や過着果, 土壤水分過多など, 栽培上の注意が必要である。

#### 4 ま と め

紅伊豆はキャベル・アーリーよりも生育期に高温量を要し, 耐寒性も劣るので気象条件からみた適地基準を設定し, 県中以南を栽培適地として紅伊豆の栽培を進めることとした。

栽培に当たっては, 適地内であっても防寒対策は必須であり, 凍寒害を助長する枝の徒長や過着果, 土壤水分過多などに注意しなければならない。

表 4 アメダス観測地点における冬期低温の出現頻度

観測地点	観測年数	出現頻度(日/年)	
		-16℃以下	-18℃以下
一 関	36	0.056	0
千 厩	36	0.194	0.056
江 刺	36	0.556	0.111
北 上	25	0.200	0.040
紫 波	25	0.080	0.008
盛 岡	36	0.056	0
雫 石	36	1.111	0.444
二 戸	36	0.028	0
葛 巻	25	1.640	0.360
遠 野	36	3.556	1.528
大 船 渡	23	0	0
宮 古	36	0	0
種 市	30	0.067	0

またアメダス観測地点における冬期低温の出現頻度は表 4 のとおりで, 栽培能地と図示された地域内であっても年により凍寒害の危険性はあることから, 冬期間の防寒対策